

## 令和元年度第9回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 令和2年2月25日（火） 午前10時30分から12時00分まで
- 場 所： 市立病院本館5階会議室
- 出席者： 理事長 森本 泰介  
理 事 森 一樹，黒田 啓史，半場 江利子，松本 重雄，位高 光司，  
能見 伸八郎，山本 みどり，白須 正  
監 事 長谷川 佐喜男，中島 俊則  
事務局 折戸経営企画局次長，長谷川事務局管理担当部長，濱口経営企画課長，  
北川事務長

### 1 開会

### 2 議事・報告等

#### (1) 月次収支（12月まで）報告

資料1に基づき，折戸経営企画局次長から説明

- 材料費の増加割合が大きい。  
→ 薬品や診療材料費増加の影響が大きい。がん患者が増加していることや，抗がん剤の適用症例が増えていることも一因である。引き続き，手術件数増加等により，手技収益を伸ばすよう取り組んでいく。
- 薬品を使用することで，収益は伸びないのか。  
→ 収入は増加するが，新薬の伸びで利益率は良くない。
- 診療材料費削減に向けて何か取り組んでおられるのか。  
→ 他病院と共同購入を行う等実施している。

#### (2) 収入状況月次（1月分）報告

資料2に基づき，折戸経営企画局次長から説明

- 外来患者が減少し，紹介率も上がっている。外来適正化が進み，紹介が増える流れができつつあるのではないかと認識している。  
→ そのように認識している。引き続き，症状の安定した患者さんを返していく取組を進め，外来の負担を軽くし，入院医療へ移行していく。
- 4月，5月の収入が少ない原因は。  
→ 職員の人事異動，大型連休の影響によるものであると認識している。

#### (3) 令和元年度決算見込及び資金繰りの状況について

資料3に基づき，折戸経営企画局次長から説明

- 黒字化の見通しはあるのか。  
→ 厳しい状況が続くが，入院収益に比重をおいて，収益改善の取組を進めていきたい。
- 資金残高が厳しい年度があるが。  
→ 電子カルテの更新を控えている。現在，関連部署で対応中である。

#### (4) 令和元年度補正予算について

資料4に基づき，折戸経営企画局次長から説明  
議案のとおり承認された。

(5) **令和2年度予算案骨子について**

資料5に基づき、折戸経営企画局次長から説明

(6) **新型コロナウイルス感染症について**

資料6に基づき、長谷川事務局管理担当部長から説明

(7) **令和2年度診療報酬改定について**

資料7に基づき、長谷川事務局管理担当部長から説明

○ 重症度、医療・看護必要度の届出について、必要度Ⅱのデータを用いて提出を行えるよう準備している。

○ 重症度、医療・看護必要度の項目で、対象の手術日数が伸びているが。

→ 手術症例を多く実施している医療機関にとってはプラスであり、当院も従前どおり手術の増加を図る。

**3 その他**

特になし

**3 閉会**